

教科書の定価は

教科書には定価が書かれていません。果たしていくらなのでしょう、安いのか高いのか、教科書は無償とは言え、誰が払っているのでしょうか、無くしたら自分で買うのでしょうか、「先生、教科書を無くしたんですが。」と子どもが来た場合や、転校したらどうなるのか、など気になるところです。はたして、教科書の仕組みはどうなっているのでしょうか。

1 教科書の定価

教科書の定価は、文科省が上限を決めており、各出版社もその上限どおり定価を設定しています。文科省が定めている定価は、次のとおりです。

【 小学校 】

数字は円。 → は、その学年でも継続して使用することを示しています。

	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
国 語	709	817	817	653	653	653
書 写	158	158	158	158	158	158
社 会			1366	→	653	709
地 図				463	→	→
算 数	322	653	763	604	653	653
理 科			627	866	959	959
生 活	1746	→				
音 楽	216	216	216	216	216	216
図 画 工 作	429	→	429	→	429	→
家 庭					275	→
保 健			209	→	209	→
道 徳	305	331	367	383	403	419

【 中学校 】

	1 学年	2 学年	3 学年
国 語	790	790	817
書 写	431	→	→
社 会 (地理)	764	→	
社 会 (歴史)	764	→	→
社 会 (公民)			764
社 会 (地図)	1086	→	→
数 学	604	604	604
理 科	733	733	733
音 楽 (一般)	246	488	→
音 楽 (器楽合奏)	273	→	→
美 術	323	647	→
保 健 体 育	415	→	→
技 術	648	→	→
家 庭	648	→	→
英 語	323	323	323
道 徳	429	429	429



- 教科書の値段は、安くもあり、高くもあり、これが有料だったら合計は大変な額になりますね。以前文部省の視学官が、ページ数やカラーが多くなると値段が高くなるので、出版社には歯止めをかけていると言っていました。それにしても、1円単位の中途半端な金額なんですね。

2 国が払っています

- (1) 教科書は、公立共に義務教育の学校は無償です。
- (2) 昭和37年に、教科書無償に関する法律が制定され、昭和38年度の小学校1年生から実施され、以後、学年進行方式によって毎年拡大され、昭和44年度に、小・中学校の全学年に無償給与が完成し、現在に至っています。
- (3) 教科書代は、発行者（出版社）に対して国（文科省）が全額支払っています。

3 すべて無償ではない

授業では、教科書の他に、問題集、練習帳、計算ドリル、白地図、図工道具、水着、水彩道具などの「副教材」は欠かせません。しかしこれらは学校によって使用する物が異なるので、無償の対象とはなっていません。

4 無くしたら

- (1) 紛失した場合は、有償となりますので、自分でお金を出して定価で買うことになります。教科書は、どこでも売っているわけではないので、学校の先生に申し出て、教科書取扱書店から仕入れることになります。
- (2) 自然災害等で失った場合は、無償で給付されます。

5 転校したら

- (1) 転校しても教科書は無償で給付されます。ただし今持っている教科書と違う教科だけ給付されます。
(今持っている教科書は次の学校でも再使用しますので、捨てないでください。)
- (2) 転校する前に、事務室から「転学児童(生徒)教科用図書給与証明書」という、どんな教科書を給与されているのか、教科ごとに細かく書かれている書類を渡されますので、それを転校先の学校に提出すれば完了で、あとは学校の担当者が手続きをしてくれます。(届くまでに1ヶ月ぐらいかかりますので、その間は前の学校の教科書を使用することになります。)

6 教科書展示場

教科書を閲覧したい場合には、毎年6月から7月にかけて、県の教育事務所や各市の教育委員会、教育センター等で展示されますので、一般の人々でも利用できますが、常設ではありません。（市の広報などで案内があります。）

常設展示をしているのは、東京の公益財団法人教科書研究センター（江東区千石）です。ここには、戦後の検定教科書を所蔵し、外国の教科書も展示されています。

7 拡大教科書

弱視児童生徒のための教科用拡大教科書で、次のような特徴があります。

- (1) 本文の文字や図表などを大きくすると共に、読みやすい書体（UD丸ゴシック体）を使用し、図表や写真などを配置し直したりして、見やすくしています。
文字の大きさは、小3までは26ポイント程度、それ以上の学年では22ポイント程度。
（UDとは、ユニバーサルデザインのことで）
- (2) 教科書のサイズは、3種類用意しています。
（原本教科書の1.2倍程度の拡大判／原本と等倍／原本の0.8倍程度の縮小判）
- (3) まぶしさを軽減するため、紙面反射率の低い用紙を使用。
- (4) 原本教科書よりは冊数が増えて、2冊～4冊の分冊となります。
- (5) 有料で、拡大教科書の価格は、文字の大きさや字体、レイアウトの修正等にかかる労力や、少部数の発行等のためコストがかかり、定価は1冊数万円となっています。
- (6) 令和2年度発行予定の小3理科の例を紹介します。

原本教科書	拡大教科書		
AB判	A4判	B5判	A5判
			
14.2pt 140ページ 1冊	30pt 668ページ 2冊	26pt 668ページ 2冊	22pt 668ページ 2冊

・ AB判とは、縦がB5判(257mm)で、横がA4判(210mm)のサイズです。

8 デジタル教科書

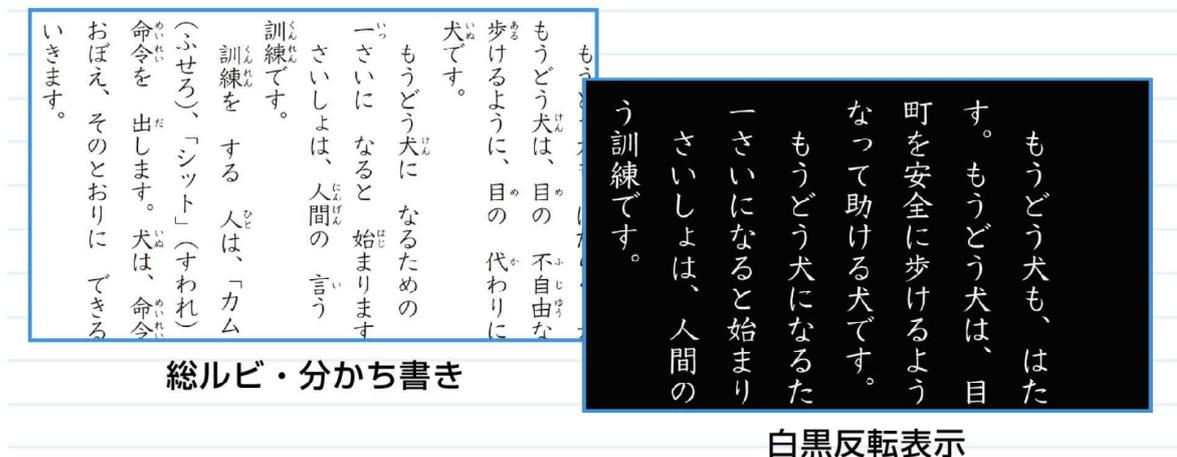
今後本格導入すると思われる、タブレット学習を行うためのデジタル教材です。

(1) 指導者用デジタル教科書

- ・ 紙の教科書の内容の全部をそのままデジタル(DVD)で記録した教材です。
- ・ 一斉授業で電子黒板やプロジェクターなどを使って活用します。
- ・ 教科書紙面に様々なコンテンツが収録されており、写真・本文などの拡大表示、動画、問題などが入っています。

(2) 特別支援授業に配慮した教師用・生徒用のデジタル教科書

- ・ CD-ROMからタブレットやPCに入れて活用します。
- ・ 視覚障害、発達障害等により、紙の教科書を使用して学習することが困難な児童生徒に対し、拡大、自動改行、行間設定、フォントの変更、音声読み上げ、動画、白黒反転、等の活用をします。



(3) 学習者用デジタル教材

- ・ タブレットやパソコン教室での学習を想定しています。
- ・ 教科書紙面は無く、画像や動画、音声、文字などの情報が入ったコンテンツを動かして練習したり、映像資料などで調べます。
- ・ 学校のサーバー経由でネット配信の情報を活用する。

(4) 価格は有償で、ある出版社では、ライセンス料で年間2万円、指導者用は1本2万円、学習者用は1本3,500円等と高額となっています。

- 教師用教科書は、年度末には廃棄してしまうものですが、内容が刷新されたときなど、あとで「あの時の教科書ではどう扱っていたんだっけ。」と見てみたくなる時があります。私も今になって、昔の教科書をとっておけば良かったなという思いがあります。

初任者にとっては、これから何十年と教師を続けていくでしょうから、研修資料として保管しておくのもいいかと思います。ただし保管は職場で。(自宅ではなく)